



さっぽろ

郵便振替 02710-3-570 あごら札幌

No. 222

あごら札幌 連絡先  
細田 (011)  
644-2927

今月通信担当

柏原

《 今 月 の 内 容 》

トラウマ? ... 1~3

FF VIII やってます♡

... 3

紅茶の時間

... 4~5

本と暮らす ... 6

「急げや急げ料理の基礎と  
コツ」

気がつけば地味な服

... 7

情報 ... 8

1999.4.15 発行

通信購読料 1,200円 (年間)

## トラウマ?

熊谷 千恵子

深夜、妹から電話があった。「おねえちゃん、お母さんがいなくなったのよ。どうしよう?」よくきいてみると、両親のいる二の宮に8時過ぎに電話をしたら父しかいなく、母のことをきいたらどこに行ったかわからないとのこと。定年後、湘南の海が好きで移り住んだ公団住宅の周りには知人もいないし夜、一人で出歩く母の姿など考えられない。そういえば、この前ふたりに私に会いに来たとき、突然夫婦ゲンカが始まってタクシーにあたふたと乗り込んで帰ってしまったわ。ほかにも思い当たるふしがある。おねえちゃん、もしかしたら家出かしら?

電話口の私も、脳裡をよぎるのは母のずっときかされている父にたいする積年のグチだった。とりあえず、朝早くもう一度電話してみることにして様子を見ることにした。その晩まんじりともしなかった。

長女の私には二人の妹がいる。2つ違いの妹は、結婚してすぐ北海道に来てしまった私の分までも否、それ以上に両親と13年下の妹のことを気にかけていてくれる。

翌朝電話はかかってこなかった。何かあったのか、なかったのか。父にきく勇気もなく、重い心をひきずりながら仕事に行く。昼近く、携帯電話が鳴り末の妹からだった。「あ、ちいちゃん、よく聞いてね。朝お父さんに電話したら、お母さん入院したのよ。尿管が悪くなってしまって、、、」

不覚にも涙がこぼれ落ちてきた。時間が経過していろいろな感情が交差するなか、あるひとつのことが鮮明に浮き上がってきた。それは、つぎのようなことでした。

《母が夜家にいない》という事実、娘三人とも《母の家出》を連想し《母の入院》を考えられなかったこと。母が血圧高いこと、いつ倒れてもおかしくはない年齢に達していることが分かっていたながら咄嗟の判断が家出ではないかというのは、何か心に障るものがある。

二人の妹たちにはきいてみなかったけれど、自分自身を自己分析してみて、はっと思った。もしかしたらこのことってトラウマ？

思春期になる頃から母の私たち娘にたいする愛情の在り様に納得できない部分もあって、心の片隅みで“お母さん、さようなら”と言いつつ、それじゃあ私にはどんな人生があるのだろうと出口のない部屋を彷徨していた。そして、アルコールが入ると性格が変わる父を特攻隊世代の哀しみなんだと背伸びして理解しようとしていた。でも、心の奥底では違う叫びが渦巻いていたのだろう。

夜になると父が母を激しくなじる場面は、いきばのない小さい私の魂を震えさせていたのではないだろうか。そして、忘れていこうと思いつつ実際忘れてかけていたはずだった。それに娘たちがそれぞれに家庭をもつようになってからというもの、とにかく父は優しい。



しかしながら原家族に非常に重大なことがおきた時、無意識の底にある《小さい時の心の傷》が突然噴き出しあんなに遠くになったはずの母を、父から護るのは私だと考え始めたのです。

40年以上も前のことが突然蘇ってくるなんてSF映画のモンスターじゃあるまいしやはりトラウマなのかもしれない。ご存じのように、トラウマとは“身近に起きた出来事が重荷となってひきおこされる全人格を襲う精神的な動揺のこと”。100年程前、ウィーンの世界分析学者フロイトによって提出され、こんにち広く行き渡っている。

全くもって恥ずかしいけれど、フェミニズムの問題はシステムとかイデオロギーなどの側面で捉えようとしていたので、根本的なところで“性暴力”“ドメスティック・バイオレンス”“児童虐待”“アダルトチルドレン”など魂の根幹に関わる問題にたいしてやっと入り口に立った状態だ。

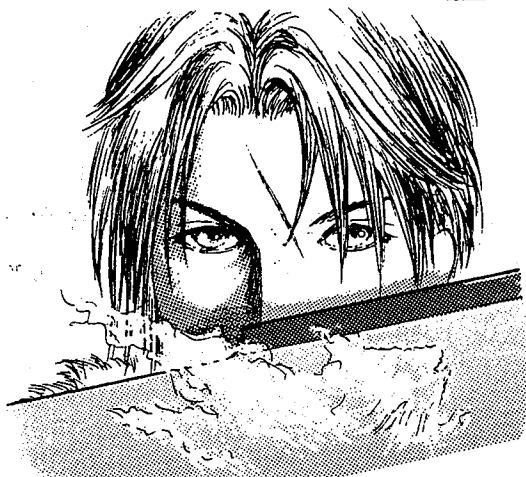
そして内なるトラウマを発見できたのも仲間との語り合い、おんなたちのメディアを通じてです。でも、子ども時代一昔を掘り起こしていくには少し年をとってしまったし、未来へ向かってパワーアップするには時間が多くはない。私のなかの二重性を抱えながらも生きて行くしかない。

15年前、その題名に引きつけられ買ってはみたものの咀嚼できずダンボールにしまいこんだ本がある。A・ミラー著「魂の殺人 親は子どもに何をしたか」です。今回のことで、再読に挑戦してみたが、多くの人を重大な精神的危機に陥れる原因となる希望を奪う状態をつくるいわゆる「闇教育」がいかにも連綿とドイツで行われてきたか、そして先の大戦の独裁者アドルフ・ヒットラーまで話が及ぶ短絡的に結論をだすのはまずいが、トラウマが人生に投影する重大さを痛切に感じた本だった。

非常に遅いスタートだが、精神領域の入り口にさしかかった以上扉を開いて進んでいけたらと思っている。No. 220にも「心的外傷と回復」という本が紹介されていたが、またこのような分野の本の紹介を心待ちにしています。

## ファイナルファンタジーⅧ やってます♡

柳



はい♡、巷でウワサのFFⅧ、やってます。私は、FFシリーズ初めてなんですが、大ハマリです。

実は、主人公のスコール見たさに買ったんで、別にいいと言えばいいんだけど、ヒロインのリノアがね、ちょっと期待外れで残念だったかな。発売前に何かで、(スコールが)リノアの自由な生き方にふれて変わっていく、なんていうのを見たから、ちょっと楽しみにしてたら、なーんだ、ただの(男好みの)可愛い女の子なんじゃん、とちょっとがっかりしたんです。たぶん「自由な生き方」なんてフレーズがなければ、そんなのがっかりもしなかったんだろうけど。

まあ、でも、うる覚えなんだけど、「俺達はSEEDだ。クライアントであるあなたの決定に従う。あなたは俺達を使って、最高の結果を出してくれればいい。」と言うスコールに対して「カッコ悪い! 全て、人に決めてもらって従うだけなんて、楽な生き方よね。」みたいなことをリノアが返すシーンがあって、ほー、と思ったの。これって、きっと「俺達は、危険な任務でも恐れないうぜ」みたいな「カッコいい」セリフなんだよね。それを「カッコ悪い!」と言い放っちゃうのは、結構いい味出してんのかも。

と、一応あごらのアプローチを試みましたが、ホントはスコールどっぷりのミーハーなハマリ方してます(キャラにいれこんでゲームするのなんて初めてだ)☺。女性キャラは、ビジュアルとしては魔女イデアが好き。ゲーム自体よりも、絵が見たくて買ったクチだけど、個人的には、私はあのシナリオ大好きだけどなあ…全体的な流れとか、エピソードがじゃなくて、細かい会話のノリがね。

# 紅茶の時間

谷百合子



今年の冬は大変だった。最後はもう雪かきをする気力がなく、天からの白い使者を眺めるだけ。嫌い、好き、キライ、スキ……

## リンカンフォーラム、公用討論会に加わって見て。

苦小牧で平和条例制定で頑張っているPさんから連絡があり、仙台の知事選で公用討論会と聞いたHさんやFさんで、札幌でか。と声がかかった。日程が合わなかつたので無理ではあるが、札幌のリンカンフォーラムメンバーと連絡がとれた。全国的に青年会議所の人が参加している様子であった。この近所のAさんと会議に参加。おかしな話もあって、私は周知事態法、慢延、泊など選挙の争点に（たまたま）実行委員に加わったのである。すでにそれは無理だと気付いた。とにかく立候補者に参加してもらうことが第一なのである。どうして現職が不利と思われか。とあるので、余り得意でない事柄には触れない場合もあるとのこと。そんなことで意味があるかと思いついて、出てくるたびに、よく見ると言うのである。市長選は本人揃って出席した。現職とひな後で激論になり、けつこう面白かったし、人柄が（ま）とよく見て、政策の違いもそれなりにつかめた。さて、問題は知事選である。堀さんは最初OKであった。公務と重なる一時的に合うとのこと。しかし、次に断わってきた。時局の関係とのこと。残念だが、堀さんの席は最後まで、壇上に残り、と代表か。言う。カッパーン！と選挙の投票箱を電話で切ったとのこと。堀さんは、前日、東京で各界の大物たちと交流し、公用討論会当日は公務（サハラの副知事なので、こちらが副知事で充分との声大なり）もそののけ、民主党の土俵の総決起大会に参加していた。リンカンフォーラムの考之は、堀さんは出席しない権利があると。それを要に、ひびかない自信もあるだろうから。他の二候補は、少くも参加者に、政策は政策とあっていた。リンカンフォーラムをやってみて、これは（ま）に重要なことだと思った。立ち、演説会もマナーをひびいて中止になった。その後、候補は支持者のみ語りかけ、違えば有権者から目で石を投ずる場所になった。公用討論会は、実に公平、中立に、現職と批難するところがないように、手はずのボランティアである。

政治家を愛するのではなく有権者を変える、のかりンカンフォーラムである。仙台の市長選、知事選での裏話、苦勞話を（ま）は巻くと、体験記を（ま）にした。知事選の様子を、韓国で「いかに（たら）当選できるか」という本に（ま）の法。今夜の4年後には、政治家の有権者レベルアップ、党と政策論議からできるようになって（ま）。（ま）欠席した堀さんの答弁を（ま）上げ（ま）とやった。（ま）におさりの回答でも、おさく（ま）か悪く（ま）

## 日本とアメリカの「不適切な関係」と問う

面白い冊子が出てくる。クリントン来日に抗議するシンポジウムの記録、羊300北原恵さんの講演と武藤一羊さんの講演である。北原さんは「男らしさの神話」とどう崩すか」というテーマで、有森裕子さんとカブリエリ・ウィルソンさんに対するマスコミの文芸。（ゲイを告白からのマスコミの変身ぶり）クリントンの女性問題と戦争についてとらえている。様々な角度から論議になり、是非お読みになって、下ネタも単なるそれではなく、流れの中でどう活用されるか、問題だと思っているので、意見と（ま）

私は「不倫」という言葉そのものがおかしいと思う。この辺はアメリカでも勿論問題にはなっている。フェミニストの中での大混乱である。Now aハトリ、パイナードは合意だからセクハラではないと言ふ。ベティ・フリーダンは「ヒューマンの問題だから公にする必要はない」と言った。〇〇のクビアスタインは「ジョージ・タマンバニと二度しなくていいから夜は（ま）からセクハラではない」と。

強硬立場にいるクリントンと、どれくらい文芸に（ま）のか、ちよと想像がつかないか。問題は日本の方ではないかという気がする。北原さんの（ま）は、環境ホルモンを取りさ（ま）正、正常か異常かの選別として、優生思想が（ま）なるといふ表現なされ、同時に、精子の減少が（ま）大問題になる。スポーツ（ま）の（ま）は（ま）て（ま）と、精子の減少は「男らしさ」の危機につながり、それは日本の危機となる。周知事態法、新が代（ま）法の国会開会の男たちの顔が（ま）重なる（ま）美代代議士の「経済再生の若手政治家たち」の勉強会の名称が「バイグラウ作戦」という（ま）



イラスト：松村宏（『週刊朝日』1998年3月27日号より）

03-9368-3110  
●北原恵の本（東京都新宿区上落合3-15-1-301号合Box）



小松 ともみ

## (4) 急げや急げ料理の基礎とコツ

「急げや急げ料理の基礎とコツ」 小林カツ代 著  
大和書房 刊

料理、苦手です。料理が好きで得意なひとって羨ましい。つれあいも私も、時間があったら寝ていたい（あるいは寝ながら本を読んでいたい）という怠惰な人間で、本質的にグルメじゃないのですね。30分以上は台所に立っていたくない、めんどくさい。でも、毎日スーパーのお惣菜じゃいやだし、外食もこの頃はあまりしたくないし。

現在、3世帯隣居住宅（わが家とつれあいの実家と私の実家の3軒でアパートに入っているような住宅です）に住んでいて、しかもつれあいの母親も私の母親もまだ元気なので、合計週3回は野菜たっぷりのお惣菜を恵んでもらっている生活です。ごはん（この頃炊くのは4対1でつれあいが主、この前は「ごはん切れたら炊くぐらいしてよ、最近俺ばかりの気がする」と言われてしまった）と汁物、パスタ（休日のランチはほとんどこれ、こっちは4対1で私が主）、ちょっとした惣菜以外はほとんど作らないでしまっています。この夢のような生活はいつまで続けられるのかしらん。「今のうちだけだね、あとは介護地獄だよ」とつれあいと囁きあっております。

で、この本はそういう料理苦手人間のわたしとつれあいの心強い味方なのですね。この本の第1刷が1985年7月で、たぶんその半年くらい後の時期に手にとったと思うのですが。うちの病棟の看護婦さんたちは、この私が鰹節と昆布だけは欠かさず、「ちゃんとダシをとって味噌汁を作ってる」と知ると、ちょっと見直してくれます。この私でも味噌汁はけっこう美味しく作れるんですね、この本の通りにやってみると。

3世帯隣居住宅にすむまえの時期は、大鍋いっぱい作った豚汁で2-3日食いつないだり、ほうれん草などのおひたしを1食ぶんづつラップして冷凍庫いっぱい並べたり（こういうモノが冷蔵庫にあると、何となく心強いものです）、この本どおりに炒め煮や野菜炒め、焼き魚を作ってみたり、ちょっとは料理してみました。「その気になれば私だってけっこうやれる」という自信をもたらしてくれた本です。



## 気がつけば 地味な服

榊

この1、2年、服装が地味です。夏も冬も、茶色の服ばかり着てたなあ。…なんか目立ちたくないっていうか。

以前は、特に夏は、ビビッドなピンクやブルーの服を好んで着てた（「おとなしそうな人なのに、服の色は派手」と言われたことも）。学生の頃には「柏原さんって、いっつも楽しい服着てるよね」と言われた記憶がある（ほめ言葉だったのかどうかは謎）。——特に突飛な服を着ていたわけではないんだけど、流行りの服は好きだったためしはないかも（あ、でも、ヒョウ柄とかの、アニマル柄はけっこう好きだ♡）。

30才前後の頃、ピンクの服や小物を好んで身につけていた。ミニのキュロットスカートはいて、久しぶりに会った友だちに「30過ぎて、セーラームーンみたいなカッコして」と言われたり。ピンクのセーター、ジーンズの短パンに、柄タイツとかはいて、ある人に「いいわねえ、若い人は何でも着れて」と言われたときは、“すいませんっ、実は私、あなたより一つ年上なんですっ”と心の中で叫んでました。

——好きな色や形のことを身につけていると気持ちがいいという他に、あの頃って、自分を奮い立たせるために、そういう（派手？めの）服を着るっていう状況がけっこうあった気がする…特に、緊張する場面で、しかもうまくやらなきゃ、みたいに思う場所へ行くとき。——ついでに「よるなさわるな」的な気分もあったかも。

「あまり目立つことを望んでないっていうか、街を歩いてても浮いていたくない。

みんなと同じでいたいんじゃないって、そっとしておいてほしいっていう。見ないでっていうか、僕に触れないでって感じ。」

これは、私の好きなボーカリストが、インタビューで、私服について答えたその一部なのだけど、この発言を読んだとき、「あ、なるほど」というか、「こういう言い方があったか」というか、「ああ、こういう感じなのかもしれない、今の私も」そう思った。

別に服にお金をかけてるわけじゃないし、特にこだわりがあるわけではないのだけど、服装が、その時の精神状態を反映していたり、逆に影響を与えていたりするんだな、なんて、あらためて考えてしまいました。





# INFORMATION

## 性教育学習会

「性に近づく子どもたち」

～家庭における性教育～

お話：丸山俊蔵（元産婦人科医）

日時：4月17日（土）6:00PM～

場所：札幌市女性センター

参加費：400円

詳しくは性教協いしかりサークル

細田（011-644-2927）まで

女のスペース・おん7周年記念公開講演会

トークセッション

## 女が拓く表現と空間

美は闘う女たちを結び、力づける

高里鈴代（神種「スペース・結」代表）

松井やより（アジア女性資料センター代表）

富山妙子（火種工房）

日時：4月30日 午後6時開場

午後6時半開演

場所：札幌市女性センターホール

入場料：1,000円

主催：女のスペース・おん

（011-622-6404）

いのち輝け

## 『富山妙子』絵の世界

女が拓く表現と空間

5月2日（日）～9日（日）10:00～17:00

（最終日は15:00迄）

札幌市民ギャラリー（中央区南2東6）

入場料：500円

特別イベント 18:00開演

1コンサート 1,000円

2日 オープニングパーティ

ナモーン・サルヒ ライブ

嵯峨治彦（馬頭琴）

熊澤功（ケーナ、ギター）

3日 富山妙子トークセッション

5日 スライド作品上映

「帰らぬ少女」

「海の記憶」「ハルビン」

6日 映画上映「はじけ鳳仙花」

7日 ドテカポチャス

（folklore）

問い合わせ 女のスペース・おん

## \*あとながき\*

先日、某ビジュアル系バンドのイベントに行ってきました。コスプレまではできなくても、たまに、少し気合い入れたカッコしていくかあと思ったら、わ、バッグ汚れてるー。靴底減ってるー。メイクしようと思ったら、うーわ、何、この眉毛…。

—日頃、いかにどうでもいいカッコしてるか思い知らされてしまいました。…しかし、マシなカッコしようと思ったら、結局、全て母からの「お下がり」（服とコートにバッグとブーツ、あ Downing もだり）になってしまったのが情けない。